

## 「(仮称) 錦二丁目計画」着手

—新たなランドマークとなるオフィスビルの開発と歴史的建築物の保存・活用による、  
栄・伏見エリア活性化プロジェクト始動—

三菱地所株式会社（以下、三菱地所）は、積水ハウス株式会社（以下、積水ハウス）と共に愛知県名古屋市中区錦二丁目を進めている再開発プロジェクト「(仮称) 錦二丁目計画」に、本年3月1日に着手しましたのでお知らせします。

本計画は、三菱地所と積水ハウスが共同で地域の新たなランドマークとなる超高層オフィスビル（地上 21 階・地下 1 階建、以下「新棟」）を新築するとともに、地域に親しまれてきた歴史的建築物「旧名古屋銀行本店ビル」（築 90 年、名古屋市都市景観重要建築物指定、以下「保存棟」）を商業店舗として保存・活用し、新棟低層部にも商業店舗を設けることで広小路通に新たな賑わい拠点を生み出します。

名古屋の古くからの賑わい軸「広小路通」と名古屋城に通ずる歴史軸「本町通」に面し、商業・オフィスの中心地「栄・伏見エリア」における本計画の開発が、周辺の再開発の起爆剤となり、エリア全体の活性化に寄与できるよう、本計画を進めて参ります。

### <本プロジェクトの特徴>

- ・ 超高層オフィスビルの開発と、歴史的建築物である保存棟の保存・活用により、連続的な賑わいを創出し、広小路通や、更には栄・伏見エリアの活性化に寄与。
- ・ 新棟には、株式会社三菱東京 UFJ 銀行が入居予定。
- ・ 保存棟には、レストラン、バンケット、ホテル等の運営企画を国内外問わず手がけている株式会社 Plan・Do・See が入居予定。

### <イメージパース（広小路通西側より）>



## ■ 新棟の概要

- ・ 建物高さ約 100m、オフィス基準階床面積約 450 坪、オフィス専用面積合計約 8,500 坪。
- ・ 高層部は伸びやかな縦のラインが印象的なデザインとする一方で、低層部は隣接する保存棟との連続性を意識し、保存棟の列柱をモチーフとした門型のデザインを採用。広小路通に新たな風格を与え、一体的な景観形成に寄与。
- ・ 完成後、株式会社三菱東京 UFJ 銀行（以下、三菱東京 UFJ 銀行）が入居予定。

## ■ 保存棟の概要

- ・ 名古屋市近代建築の先駆者である鈴木禎次の設計により 1926 年（昭和元年）に旧名古屋銀行の本店ビルとして竣工（築 90 年）。
- ・ 1989 年に名古屋市都市景観重要建築物に指定。2009 年まで三菱東京 UFJ 銀行が貨幣資料館として使用。
- ・ 広小路通の歴史を今に伝え、地域に親しまれてきた歴史的建築物であることに鑑み、建物本体、外装は極力現況のまま保存しつつ、現代において積極的な活用が可能となるよう、耐震性の確保、最新設備の導入等を行う改修工事を実施。

## ■ 新たな賑わい拠点の創出

- ・ 改修で生まれ変わる保存棟と新棟 1、2 階の商業店舗により、広小路通沿いに連続した賑わい空間を創出。また、保存棟と新棟の低層部ライトアップにより、歴史的建築物の存在感を伝え、広小路通の夜の風景に彩りを与える。
- ・ 新棟商業店舗には、上質な飲食・物販店舗を中心に誘致を検討。また、周辺のオフィスワーカーや都心居住者をサポートするサービス機能も導入し、栄を中心とした来街者も取り込める大人の空間を創出する。
- ・ 保存棟には、レストランやバンケット、ホテル運営等の豊富なノウハウ・事業経験があり、歴史的建築物のリノベーション・アレンジを得意とする、株式会社 Plan・Do・See が入居予定。保存棟の魅力を活かした良質なレストランやバンケット等を運営し、平日休日を問わず広小路通の新しい賑わいの核となる。

## ■ 本計画の位置付け

- ・ 2027 年のリニア中央新幹線開通に向けて、更に魅力・競争力が高まっていく中部圏、名古屋を重要な拠点エリアと位置付け、事業を展開しています。再開発が進行する名駅エリアにおける「大名古屋ビルヂング」の建替えに加え、栄・伏見エリアの活性化に寄与する本計画にも取り組むことで、日本を代表する都市である名古屋の発展に貢献して参ります。
- ・ 歴史的建築物の継承については、東京・丸の内を中心に取り組み事例があり、本計画もその流れを汲んだ取り組みです。今後も都市景観の歴史を継承する機会を活かしていきたいと考えています。

### 【参考】



大名古屋ビルヂング

<大名古屋ビルヂング(愛知県名古屋市中村区)>

中部圏の玄関口となる名古屋駅前にて、長年に亘り地元の方々に親しまれてきた歴史ある旧大名古屋ビルヂングを建替え、国際的・広域的な業務拠点を形成。また、魅力的で活気に溢れた商業施設や集客型・来店型の集客施設を整備し、2016年3月9日にグランドオープン予定。※一部店舗を除く。

<歴史的建築物の継承事例：三菱一号館(東京都千代田区)>

東京丸の内における最初のオフィスビル「三菱一号館」(1894年竣工、1968年解体)を、当時の設計図、実測図、保存部材等により可能な限り忠実に復元。2010年から三菱一号館美術館設け開館、内庭として広がる一号館広場と共に、賑わいと憩いの場となっている。



三菱一号館

## ■ 計画概要

事業者	名古屋デベロップメント特定目的会社(※)、積水ハウス ※三菱地所が開発業務を受託
所在地	名古屋市中区錦二丁目 2011 番ほか (地番)
敷地面積	約 4,581 m <sup>2</sup>
延床面積	新棟：約 45,410 m <sup>2</sup> 保存棟：約 4,956 m <sup>2</sup>
階数	新棟：地上 21 階、地下 1 階、塔屋 2 階 保存棟：地上 6 階、地下 1 階、塔屋 1 階
主要用途	事務所、店舗、駐車場
設計監理	新棟：株式会社三菱地所設計、株式会社竹中工務店 保存棟：株式会社三菱地所設計
施工	株式会社竹中工務店
スケジュール	2016 年 3 月 1 日 新棟新築工事着工 2016 年 6 月 保存棟改修工事着工予定 2018 年 2 月末 新築工事・改修工事竣工予定

## ■ 位置図

